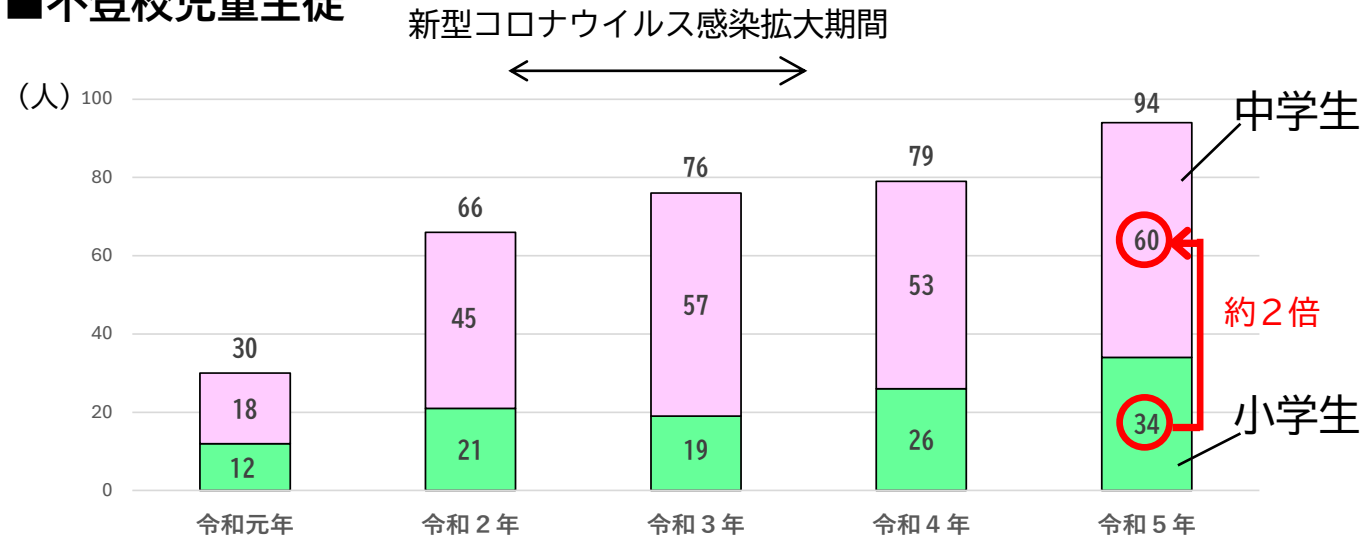


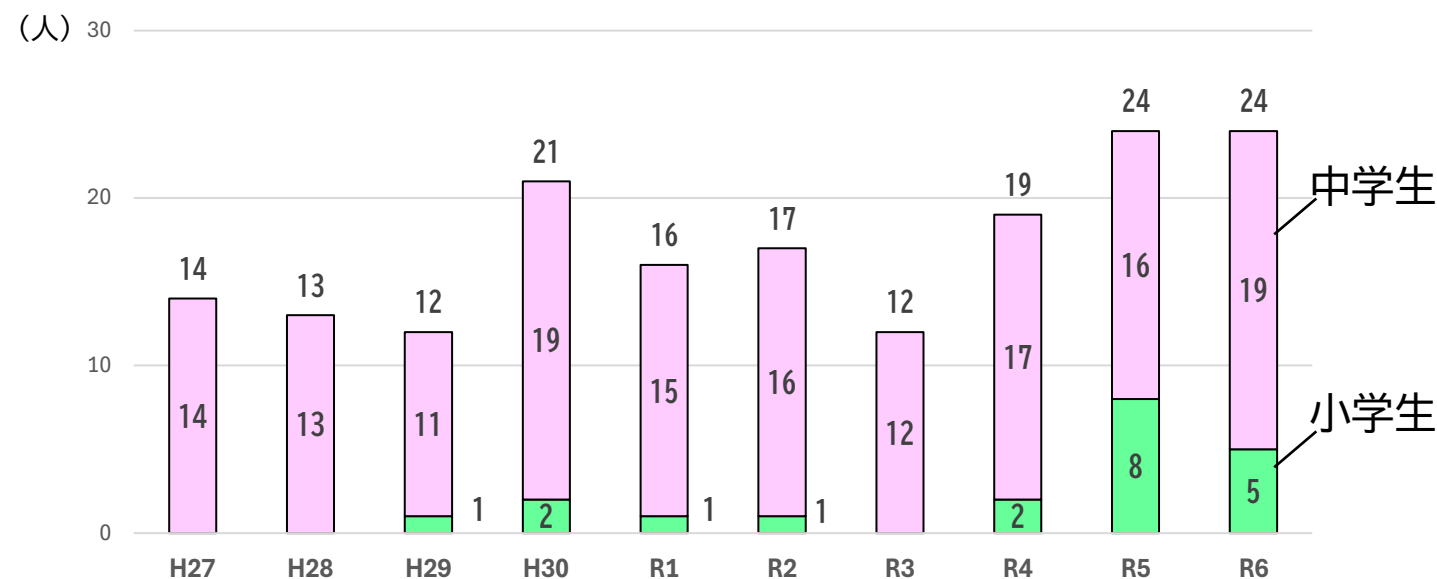
① 現状と課題

項目	現状と課題
不登校児童生徒数の推移	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒は、コロナ禍の期間を挟んで増加傾向にあり、過去5年間で30人から94人と3倍以上に増加している。小中学生別では、中学生の増加の方が多く、人数も中学生の方が多い。
白岡市教育支援センターの在籍者数	<ul style="list-style-type: none"> 市では、市役所篠津分館の2階にある教育支援センターに、児童・生徒支援（適応指導教室）を設置している。 教育支援センターの利用者数は、過去10年間で14人から24人へと微増傾向にあり、特に小学生の利用者が増加している
「さわやか相談室」の設置	<ul style="list-style-type: none"> 各中学校に相談員を配置し、「さわやか相談室」を設置している。利用は、休み時間中となっている。

■不登校児童生徒



■白岡市教育支援センター在籍者数の推移



■さわやか相談室

- 埼玉県では、いじめ・不登校の問題の解消を図るために平成8（1996）年度より県内の各中学校に「さわやか相談室」を設置しており、白岡市内の4中学校にも相談室がある。
- 学校や地域社会において児童生徒の悩み事が生じた時、いつでも気軽に相談に応じられる体制をつくり、安心して生活できる場と機会をつくることを狙いとしている。
- 開室時間は10～15時で相談員が常駐し、2週間に1度スクールカウンセラーが巡回する（例：菁莪中）。小学生や保護者も利用できる。
- 児童生徒が必要に応じて利用することができる。
⇒教室に居られない生徒の居場所にはなっていない。



さわやか相談室（菁莪中HP）

■（他自治体事例）各学校における自由学習スペースの設置事例

- 兵庫県高砂市では、令和6（2024）年度よりすべての小・中学校において、「校内サポートルーム」という名前の自由学習スペースを設置している。
- 学校へは登校できるが、教室までは行けない子どもへの、多様な学びの場の提供と社会的自立を促すために支援。
- 不登校支援員が教室内に常駐して支援を実施。

② 今後の方向性（案）

- ✓ 学校には登校できるが、教室までは行けない子どもへの支援のため、教育相談体制などの一層の充実を図る。
- ✓ 学校に来られない子どもに対しては、学校とのつながりを維持するため、居場所づくりや学習機会などの提供に努める。